

令和7年度運営方針

I 行動障害のある方に対する支援アプローチと地域生活支援ワーキング

1 目的

行動障害のある方は特性により、自身が希望しても利用できる資源が少なく、生活に困難を抱えている。特性に対応するため、通所先では知識や技術に裏付けされた再現性のある支援が必要だが、支援者が個別にそれぞれの方に適した支援方法を模索している現状がある。

事業所において人材養成のプログラムを展開する「コンサルテーション」と「スーパービジョン」の手法を用いることにより、一人一人の特性理解と構造化された支援手法を検討する。それらの支援手法を普及できる「中核的人材」を育成し、行動障害のある方と家族が安心して地域で暮らし続けられる環境を調布市に構築することを目的とする。

2 ワーキングにおいて取り組む主要内容について

生活介護事業所にアンケート調査を実施し、ニーズを明らかにした上で調布市内における行動障害のある方への特性に応じた支援方法について検討する。

上記の経過を経て、利用者の状況と支援者側の意識の変化を検証し、習得した支援技術を他機関に普及できる「中核的人材」を地域の中で増やす。最終的には行動障害のある方のコーディネーターを市内に配置することを目指す。

3 ワーキンググループメンバー（敬称略）

座長	山本 雅章	（社会福祉法人調布市社会福祉事業団 業務執行理事）
	縄岡 好晴	（明星大学人文学部福祉実践学科 准教授）
	進藤 美左	（特定非営利活動法人調布心身障害児・者親の会 会長）
	今宮 麗子	（社会福祉法人調布市社会福祉事業団 事務局長）
	宮尾 治幸	（社会福祉法人調布市社会福祉事業団そよかぜ 副施設長）
	新田 倫永	（社会福祉法人調布市社会福祉協議会希望の家 統括施設長補佐）
	亀田 良一郎	（社会福祉法人調布を耕す会しごと場大好き 施設長）
	名古屋 一	（特定非営利活動法人ファーストステップ 施設長）
	井上 正人	（社会福祉法人大泉旭出学園調布福祉園 支援係長）

4 事務局

調布市障害者地域生活・就労支援センターちょうふだぞう
調布市障害福祉課

5 令和7年度のワーキングにおける成果目標

アンケート調査を実施し、ニーズと現実のギャップを明らかにする。行動障害のある

方が地域で暮らし続けるために、生じているギャップを解消する支援手法と普及方法の方向性を検討する。

II 学齢期の福祉教育を考えるワーキング

1 目的

教育機関と協働して『障害の社会モデル』をふまえた障害理解教育（人権教育）の授業パッケージを作成し、そのパッケージの普及啓発・活用を進めるための方法について検討し、調布市における障害理解のさらなる促進に繋げる。

2 ワーキングにおいて取り組む主要内容について

- ・『障害の社会モデル』をふまえた障害理解教育（人権教育）を実施する目的や意義、教育内容、教育方法について検討する。
- ・教育関係者の意見を取り入れながら、授業パッケージ（指導案、動画教材、ワークシートなど）を作成する。
- ・作成した授業パッケージの普及啓発の方法について検討する。

3 ワーキンググループメンバー(敬称略)

座長	谷内 孝行 氏	(桜美林大学 健康福祉学群 准教授)
	高江洲 幸男 氏	(当事者)
	佐々木 翼 氏	(当事者)
	樋川 宣登志 氏	(調布市立第一小学校)
	原田 勝 氏	(調布市教育委員会指導室)
	毛利 勝 氏	(特定非営利活動法人調布心身障害児・者親の会)
	木内 洋 氏	(社会福祉法人調布市社会福祉協議会こころの健康支援センター)
	田村 敦史 氏	(社会福祉法人調布市社会福祉協議会ドルチェ)
	野原 健吾 氏	(社会福祉法人調布市社会福祉事業団)

国領地域児童館・学童・あそびバ

4 事務局

地域生活支援センター希望ヶ丘
社会福祉法人調布市社会福祉協議会ドルチェ
調布市障害者地域生活・就労支援センターちょうふだぞう
調布市障害福祉課

5 令和7年度のワーキングにおける成果目標

教育機関と協働して『障害の社会モデル』をふまえた障害理解教育（人権教育）の授業パッケージを作成し、その普及啓発・活用を進めるための方法を構築する。また、この授業パッケージの活用により「調布市教育プラン」に掲げる「命の大切さを自覚し、人の尊厳を重んじ、互いのよさや違いを身に付けた子ども」の育成を目指す。

Ⅲ サービスのあり方検討会（調布市障害者相談支援専門員連絡会）

1 目的

市内の特定相談支援事業所の相談支援専門員は、権利擁護の視点を大切にし、個別支援の実践とともに社会環境の調整を行い、利用者の意思を決定するための支援をするとともにそのニーズをアセスメントし代弁する役割がある。

この連絡会は相談支援専門員のケアマネジメント能力の向上と均質化、調布市におけるサービスの支給決定の考え方の共有、情報交換等を図り、ひとりひとりの尊厳のある暮らしが満たされる社会を構築することをめざし、よって障害者福祉の増進に資することを目的とする。

2 出席者

調布市内の指定特定相談支援事業所(14事業所)の相談支援専門員(事業所開設順)

- (1) 社会福祉法人新樹会 地域生活支援センター希望ヶ丘
- (2) NPO 銀河福祉会 銀河ケアサービス
- (3) 社会福祉法人調布市社会福祉協議会相談支援事業所 ドルチェ
- (4) 社会福祉法人調布市社会福祉事業団 ちょうふだぞう
- (5) 調布市福祉健康部障害福祉課
- (6) 調布市子ども発達センター相談支援事業所
- (7) 社会福祉法人調布市社会福祉協議会相談支援事業所 調布市こころの健康支援センター
- (8) 合同会社マーレ相談支援事務所
- (9) 株式会社シエル相談支援センター
- (10) 障害者自立相談支援協会
- (11) KIZUNA 相談支援センター調布
- (12) ポコポコ・ホッピング神代団地
- (13) 相談支援事業所だつくす
- (14) ライフシフト相談支援事業所

3 実施計画

- ・今年度は、全6回を予定している。第2回目と第5回目は、地域生活支援拠点会議を併せて開催する。
- ・地域生活支援拠点会議においては、「地域体制強化共同支援加算」を算定した事業所があれば報告をしてもらい地域課題について共有を図る。
- ・今年度は、事例検討の際、主任相談支援専門員にスーパーバイズをしてもらうことを予定している。同じ地域の課題を知っている支援者同士のつながりを強化し、助言し合える関係性を築くことで、地域全体の支援力の向上を目指す。